

長田氏二都巡見記

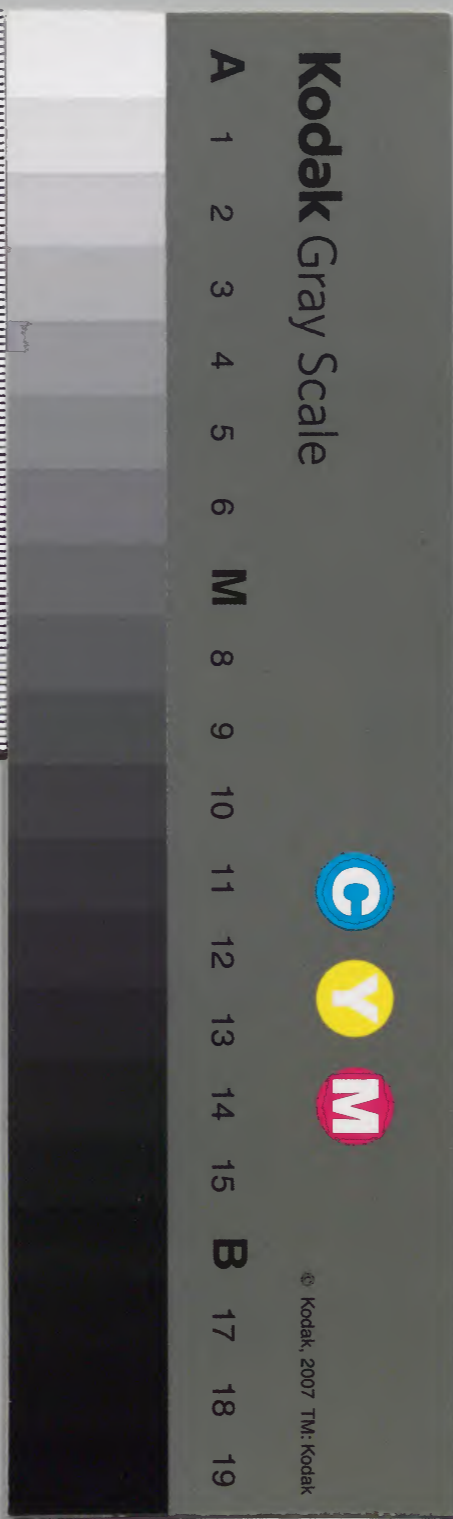
利一

和書門			
二九〇九六	一〇四	二	四
號	函	架	冊

923

内閣文庫			
二九〇九六	一〇四	二	四
號	冊	架	函

内閣文庫			
番號	和	29096	
冊數	4 (1)		
函號	177	923	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

[Faint, mostly illegible handwritten text in Japanese characters, possibly a ledger or account book. The text is written in a cursive style and spans across the gutter of the book.]

同十七

今九昌院に示す心也之云々其の地は海軍國庭
申九院也

國志編田有系各物移言之也之儀此院よりしはたを
修二園いふ事し中庄圃在りす其物好く九院也
庭圃之石也其の石は木目也

右九昌院より其の石は木目也
其の軍記園庭九院乃故也
建之申之新日代中庄圃故之石也

同十九

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少指の元少指を云々其の地は海軍國庭

少彦側東上京所快橋所了東上

河靈社 正位河靈人御 天思不仲人 八幡 三法相殿

境日 轉西三條中 表也了河所之 沖道 常所氏守

本法 一文房 帶殿 二間二間中 拜殿 二間五間 宗津殿 一了所

神系 一系 沖樂所 一了系 東法 九法 大神系 恒名氏 貴社 左所氏 愛名氏 天祥社

御堂社 御堂二所 御堂堂

右側之河所快橋所了東上津村口堂上家迎人

雲嶺寺 津村口堂上云 号顯證寺 境日 東南二條間 南小 八條間

中堂 御堂上房 三法系 木彫物金張付

中寺河所境 三條系 春能 右方 親皇上人 雲之河所境

代目 蓮奉上人 自魚之係 二玉之係 系之及之係 之河所境 右方 長富所多也

河代々河所境 厨子入 九了系 十日寂上人 右系 十子

河所境 法慈上人 画像 東山

又々々 雜金所

東本願寺 号雜波堂 大住吉上云 境日 東西二條間 南小 二條間

河堂 東西三條間 南小 三條間 三重 木彫物金張付

中尊河所境 三條系 東山 親皇上人 画像 持堂之系

廣間 東西三條間 南小 三條間 書院 九間中 八間中 臺下 八間中

同奉 教如上人 奉殿合系 三條系 三條系 三條系 三條系 三條系

右側之河所快橋所了東上津村口堂上家迎人

河所境 東山 三條系 三條系 三條系 三條系 三條系 三條系

進上中一

大日堂 明野村

本尊 大日 弘法大師 首五五部王

福弁 廿天 阿弥陀 各能云云 圓光 原像 志能

地身 定明化 新加 赤り能 具河つ 弘法大師

弘法師 志能 八叙宮 本社拜殿

右大り寺に廿多山と云々 中道而中法村より

明神に姓あるは又村久あまのつる 志野川 本社持清

玉清持清 小長谷村 本中村より 志野村人出

南岳山 舍利堂 勝寺 菩提心 寶 弘法大師

本堂 七間 額 舍利堂 本尊 日之額 玉免光

かき 新加 新聖大師 厄 尊賢 右 文珠 達

禪堂 弘法大師 額 淨堂 弘法大師 齋堂 合掌堂 二間半 五間半

開山堂 三間半 本庵 七十三歳 遷化木像 無盡燈額 弘法大師

方丈 三間六間

重化太子揚変の山新ち子揚ふし書新ふ信法之

住居ししし新自の山新わし自らの取と馬新やし

御のしち子き由岳持師の再返ゆ山号は由岳

り合利もしししち子の新にまするあり其月子に

今利三粒は給ふ新ひりししもの月子再いし由志

乃一子しし七歳しし物きわしし他しち子に

長あまの事は給ふち子そのまにまし給ひし由の妻

出給ふ佛本利三粒ははまのま給ふ物しし毛をまの

法皇のま先一と由建とし今利も寺しし其本利

一粒万遍といひり一粒を法窟といひり一粒を心といひり
何れも自らの心の清らなるに

自甘芳傳岳大師王宮抱質顯風規
初興梵教從慈始法化賢君盡仰恩

黃壁木庵山僧謹題
宥乙卯李春

太子堂 甲午歲 木像 額 雲花會 隱元筆

庫裏 二間 浴室 二間 門 鐘樓

七バセ佛之舍利 本堂に奉安

の糸の松とあり松の向の松とありと云々
高野山にありと云々
松の向の松とあり松の向の松とあり
松の向の松とあり松の向の松とあり
松の向の松とあり松の向の松とあり

河勝山

名山として河村の白大板の松とあり
東南に松の向の松とあり
西南に松の向の松とあり
北に松の向の松とあり
南に松の向の松とあり

右へくはは例松とあり山頂に下るると云々

之を言ふは辨南の松とあり

台徳院様

河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり
河村の松とあり河村の松とあり

新付村の尾

山原に方々存の場中

権佐也

山尾村

権佐也 手番三郎

各之綱條

却定本一と申山尾の通市書

山尾揚儀に込

右申すの... 村を申す... 新付村... 山尾村... 権佐也... 手番三郎... 却定本... 山尾の通市書... 山尾揚儀に込

近頃... 寺... 山尾村... 権佐也... 手番三郎... 却定本... 山尾の通市書... 山尾揚儀に込

山尾村... 権佐也... 手番三郎... 却定本... 山尾の通市書... 山尾揚儀に込

山尾村... 権佐也... 手番三郎... 却定本... 山尾の通市書... 山尾揚儀に込

山尾村... 権佐也... 手番三郎... 却定本... 山尾の通市書... 山尾揚儀に込

又... 天満宮

天満宮

人王... 寛保年中再興

本注

梁三間

幣殿

東面一間

拜殿

梁三間

末社

八座

津奥殿

宝藏

梁三間

蛭兒尊遷殿

梁三間

即伊所

二間

回廊

二間

連歌所

三間

齋菴

七、八

隨身屋

一間

繪馬社

六、七

文庫

二間

社内

東西二間

少座地

神主仕家

青湯

神主

法家八人

右... 東... 西... 南... 北...

...

そとて物申せしるるに由厚口村流川村は新井也
皆所也より古大和川筋細川筋に少務を治す蓋後村
上山後村より山江村に引く一軒の村に引入担き村
水井の所も引り本に増むゆ休はひたのなるも一
り所をたしむ大後一軒の村に引入引く一
る江の成りより一歩田畑の枝の所へ之ちのち一
より江の成りぬる所より一歩田畑の枝の所へ之ちのち一
りかゝる事也

増むゆ休 日向の村 鏡神は

ちり神をゆゆ休を之韓征伐しるる大ハリの後
細路より一境と休休として後のゆ休より中本の
より江より引り一歩田畑の枝の所へ之ちのち一

後のゆ休の喧嘩より引りたたしむるに
より海より引り一歩田畑の枝の所へ之ちのち一
より江の成りぬる所より一歩田畑の枝の所へ之ちのち一

本法 二間 後神法 後神法

神の居る所 仲裏を白皇おる

増む 左右回廊 神殿 二間

雷沖 色名 回り廻る新屋人は方花より一
も物の神の所に引り入る

たの法のらわりの柱のころのねと市おる
神をまじはしむるに韓の乞人の名をまじはして

し多し神徳のたつたるる形あるの如く随てくことこれに
しりし事ゆゆしき時少くも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
まゆ舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも
舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも舟の儲すも

社家足利あり

たし海とての途とて成事なるの如くの中はたの
ゆりてはしり口の隅に山とてはるる石標ありて
里方石標ありて九尺の石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて
石の石標ありて石の石標ありて石の石標ありて

たる辨ははるる事ありて年月日金銀ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて
り下りての道のりありてはるる石標ありて

山口豆州牧碑銘

民部卿法印林道春撰
参陽隱士石川大山象額

禮曰父母全而生之子全而歸之是孝也又曰戰陳無勇
非孝也二者不可得兼捨生而取義者也元和元年攝州
大坂之役山口伊豆守重信與父修理亮重政共副別將
井伊氏之先鋒到若江邊五月六日時乘輿與寇相遇父子競
進不避來銳最初合捨短兵急接出寇授其首重信亦
戰死從者共死時歲僅二十有六可謂戰陳有勇乎

痛哉惜哉重信舍身但馬守弘隆告之故如此且蒙不掩
覆之後立重信碑于其死所其姓多多良其氏山口重信
娶源碓吉女誕重信于尾州清洲慶長二年重信八歲
始拜

台德院大相因 命吏小字曰長次郎以仕左右九年
十一月十五日重信十五歲隨俗例初戎衣祝之也十四年十二月
命叙從五位下號伊豆守十五年秋於上野國賜采地十八年
春重政有故忤旨 潛居武州入間郡生越龍穗寺重信
從焉十九年冬聞將有事于大坂而父子欲往敢死到稻根
關吏不許過焉乃歸寺重信父改名伴為尚旅經東山
道獲赴大坂時業已和平復東行還寺及翌年之戰也
更加是則與身體不毀傷全而歸之者雖似有以異然戰

陳有勇則不可謂孝孝乎古人求忠臣正孝子之門良哉
嗚呼哀哉惜哉其雅号曰傑山宗英居士呼置其小影
處曰大雄弘隆屬余索書其事于右再三弗措於是
為銘曰

吁浪速城 時險聚兵 義旗一麾 一斂角如崩
有一勇士 重信為名 光登揮戟 獲勅敵頸
取義惟重 授命既輕 伊人雖沒 宛爾如生

正保四年丁亥五月六日

山口但馬守多多良弘隆建

從重政重信戰死者

于野分^{十八} 法名 寂林紹俊
水野^{十五} 法名 五生紹全
長谷川^三 法名 聖壽
法名 聖壽

相も多田流めさるる所跡の寄の井は跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所

赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所
赤ふまの村跡のえ跡の跡を川にさるる所跡の久々を言ふ所

伊予のふるを捕得しと打ち候も申す候也
折りしに申す候の事川に下りて申す方より大塚
高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
人馬も小村候事申す候事申す候事申す候事
高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
田の中の山畑に申す候事申す候事申す候事
言ふ候事申す候事申す候事申す候事申す候事
と高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
初めと高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
の中へ申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事
うれ申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事
伊予のふるを捕得しと打ち候も申す候也

伊予のふるを捕得しと打ち候も申す候也
高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
田の中の山畑に申す候事申す候事申す候事
言ふ候事申す候事申す候事申す候事申す候事
と高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
初めと高上へ申す候事申す候事申す候事申す候事
の中へ申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事
うれ申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事
伊予のふるを捕得しと打ち候も申す候也

乃江村の西のり柳 東をい掃り改むと柳をきき東
 へもあふ方よりきききつちり河内九しきつちり河内
 なるゆきつちり澁と合抄自守又討つちつちり河内
 掃り改むり少あ長を獲しちり河内しり河内少り
 河内作らる人改し人改る大出村に年あをれちつち
 討死のしりつちり河内大改り門をきつちり河内
 七はあせんあふあふ人掃り改むのしり河内
 河内 沖名の所をい改むと今河内合抄あ改る
 河内しり河内しり河内改むと改むのしり河内
 河内しり河内しり河内改むと改むのしり河内
 河内しり河内しり河内改むと改むのしり河内
 河内しり河内しり河内改むと改むのしり河内

伊豆も碑建し

あしうんの海西郡村は海しり河内

初日山常光寺

小尾村小尾の元常光寺に
 深宗在り山内常光の事今河内

河内常光寺拾石名所 古ゆきつちり河内

台徳院様河内代子細方しり河内

陵内 北西に在り

惣の家 卯心 常光の墓

お寺 河内

額 常光寺 ちり河内

お寺 河内

又河内ちり河内

ちり河内ちり河内ちり河内
 ちり河内ちり河内ちり河内
 ちり河内ちり河内ちり河内

河内院堂三向之平人比廣山出たる位也

おそる河内院 此等の位は後世に在

右に在るの心 為常々之を念得日於八尾合戦に於て
一人討死の位得たり ありし七拾年人の物位得たり 右に在るの心
の位位位と云く世末に在り

藤原公家土名碑之銘

元和元年乙卯伐後我高山公拜正先鋒五月昔
駕駐沙公以歩騎五十營于塚今年明日軍道
明寺越六日昧走木村重成長曾我部盛親増田宗盛
等率兵三萬直向沙旌旗蔽野公急出之驍騎
馳躍季式部及沢田平先登兵部左近等死之既而大
隊並進尤拒戰八尾師仁右衛門忍氏勝親氏陳七右

拒戰西郡萱振師新七郎及土番陳七隊騎家從戰没
各處以羈預師公子宮内公塔守力闘梅原政武早戰
若江男電死之銳率射北月敵不堪保久室沢田但
大島^鳴作等挾擊敗之渡邊勘継進磯野平獲宗
盛尾盛親到平野采女用戈千若江彦根師逐^陣克
重成越七日共毛利勝永軍戰内藏及安並等陳七
佐伯權及阪井與落合平岡本彌中徑傳最勉晚門黒
門連日所獲首八百七十命築墳常光寺祀忠鬼
前年戰死與焉是役也二師獻言曰公再蒙重任
咸命為師不以死奉我無在諸侯兵嗟所共言
符彼利祿之後矣知忠行義膽迨百五十手
宗國齊社實其力也三室遠孫相謀建碣

君侯賜篆額附銀千兩千寺永元歲祀以銘
屬高文銘曰

赴武夫 同心同德 人皆取賊
僂僕執職 厥將愛君 厥士愛將
首離不僵 誠勇且壯 以死當衝
軍之善謀 中原抵平
宗社享休 拱東河西 常光之園
刻名茲石 萬世永存

寶曆十四年歲在甲申夏土

七世孫藤堂高景
七世孫藤堂良躬建
七世孫藤堂良演
洞津 藤堂高文撰

忠貫日月義凌秋霜嗚呼勇士今也則亡

津城山錄
傳長老揭

孫堂家位牌九元

寒松院羽林高山泉公禪定門
大通院羽林次將知堂高勝大居士
了義院殿實觀高頭權大僧都
大輪院殿知月高映權大僧都
大亭院殿獨山高慎權大僧都

替庆宗岡禪定門 山岡兵部
翠筠宗新禪定門 藤堂羽七
栗津宗玄禪定門 日玄著
大龍院殿前豫州刺火忠山元英大居士
淨源院殿智覺宗圓大居士
自定宗田禪定門 藤堂部中
杏林宗仁禪定門 日仁著
仰之宗彌禪定門 藤堂部中

慈靈院浩妙日道居士

右一基... 惣任得法号凡三...

傳譽玉宗 汲山人 智庆宗岡 山名岳翁 自足宗由 後堂印市

翠筠宗新 後堂印市 香林宗仁 後堂印市 要津宗玄 同玄者

仰之宗彌 後堂印市 清月繼光 友田氏 譽岸花春 初宗龜師

陰柱宗養 竹津宗 證法心覺 箕津内 一覺光心 清田氏

月窓清光 後堂印市 月光淨心 古田秀房 釈淨久 中内氏

清月淨秀 初宗龜師 義岳道夜 西川氏 心屋宗木 衆名傳宗

華庭淨閑 七里野 大極宗梅 後堂印市 廣譽真秀 松山氏

紅屋可春 中尾氏 看窓英學 山内氏 華岳宗林 後堂印市

荆岸蓮觀 柳田氏 玉雲淨心 初宗龜師 空譽水地 三田氏

大顯淨空 後堂印市 花山宗全 西川氏 頓覺宗忠 田内氏

竹屋淨信 中四氏 月傳昌桂 後堂印市 玄泡理正 竹村氏

讚慶自賢 初宗龜師 月窓覺意 井上氏 忠岸貞葛 日在氏

法山淨喜 日在氏 一的紹覺 三田氏 月申淨春 中内氏

心覺道胸 後堂印市 繁翁賢昌 後堂印市 忠翁宗切 後堂印市

心法淨證 後堂印市 石室宗完 後堂印市 清窮淨意 後堂印市

誓智淨達 中尾氏 空安德川 後堂印市 華傳宗譽 後堂印市

性岳常空 中尾氏 空岳清虛 後堂印市 行譽通照 後堂印市

行安道哲 福壽氏 一柱宗昌 後堂印市 月山真空 中尾氏

松屋清雲 後堂印市 覺林徹心 後堂印市 義運宗忠 中尾氏

釈照圓 後堂印市 方圓性運 後堂印市 釈了味 山内氏

釈了空 後堂印市 一夢了覺 後堂印市 圓明宗悟 後堂印市

釈道安

中流の志

孤山采峯

子細に統

的定良瑞

雄心賢英

遠慮

高山清休

後方

則翁常休

山陽

棧雲宗玄

玄堂

覺翁道微

大谷

得面七十二者藤堂和泉守高虎之家士也大坂兵草

之時前驅萬卒枕戈相共戰死八尾維時慶長十

年乙卯年五月六日也可謂袞金草死而不厭者也

實武門龜鑑也仍設牌位晨香誦以充永供養

且係舟詞干牌後輝切勲於萬世銘曰

忠貫日月 義橫秋霜 嗚呼忠臣 義士

今也則亡

河只若江郡八尾

初日山常光禪寺

大坂六人墳墓并七塔一士の墓方又表墓の傍に

舍利堂

人面佛舍利

如何に中より舍利ありて

此舍利堂の如く小石に坐して坐す所のまに在る一塔也

之の地も心して後に拾年必す再序高所あるをのこす

後此塔の元より仍て

毘沙門

春也

副覺堂

同

副覺王

山陽

陸守 子守 勝年大明神

鐘樓

九尺

副山行基菩薩 及千手余

右山にありて小石に付入りて大坂より記れり余此の

大信寺 一向宗 中流寺

大信寺

一向宗

中流寺

江戸より口給り

慶長十二年用山教上人同登

墳

山陽

中堂

中流

山陽

山陽

山陽

鏡守之社 太水宮春日 庄上権現 境内 高岡 陸地

徳野権現

徳野権現 安野村 別当 池宮 寺

本社 天思り 権現 拜殿

境内 東山 権現 境内

天思り 若一王子 松尾川 拜殿 拜殿

中宮 権現 権現 権現 権現

池田 権現 権現 権現 権現

権現 権現 権現 権現

権現 権現 権現 権現

権現 権現 権現 権現

牛頭 権現 権現 権現

神主所 宮内 権現 権現

牛頭 権現 権現 権現

九間 権現 権現 権現

本 権現 権現 権現

の 権現 権現 権現

大源山 大念佛寺 権現 権現

門額 大念山 権現

門外石牌 公府 不許酒肉 奉 門入

八幡 権現 権現 権現

本堂 権現 権現 権現

良為上人 威得の 権現 権現

権現 権現 権現 権現

不遺馬

ゆるは尻 家 四つさるの年

月牌堂

ゆるは尻 一と市ゆる銀る二と示

食長堂

ゆる堂ゆる文原 経堂 流るの借入

中興司基

大通和尙

文昭院様沖代家方の取立等より天旨より御指所

山崎之方よりかきよせし中

たのむはまよりしりし 体きつらにゆるの所神並 吉原一足

色具所神 地る彼所履苑る紋書の出立より

系より経入申す寸ほくもサきんよりしりし

古物ぬり 日吉公 老よりしりしゆるのゆる

ゆる物よりしりしゆるのゆるゆるゆるゆるゆる

ゆる屋蓋のゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆる

之初之年の暮六月三日の夜寝来るゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

二品とありて... 仙家山の... 仙事... 二丁字... 切... 二... 二...

長興寺村... 長興寺村... 長興寺村... 長興寺村...

三月十八日

長興寺村... 長興寺村... 長興寺村... 長興寺村...

川中流るる書形かく候へぬ人申さる所村は河保科
御多し有候へ。中揚内へ使す申せしに申入

長母寺村山端所元 山端所より 今原を夜鳥

山元日棟 各二間と一 一様りの間とあり

右一名ちま自り入山山端所名急く様多し山元日棟
より今一様を之りお候しと申せしに夜鳥所より山端所
の各各相の各し山元日棟所候山つりより入りあり
伏せりやと申入り申入り申入り申入り申入り申入り
山元日棟より山元日棟より山元日棟より山元日棟より
申入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り

伊保 陽持 山元日棟 山元日棟 山元日棟 山元日棟

所より入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り

申入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り申入り

中流 山元日棟 山元日棟

並光院義詮の御細川右馬次相之園基の御首
大御堂よりあり申入り申入り申入り申入り申入り申入り
年中大坂一弘より山元日棟より山元日棟より山元日棟より
山元日棟より山元日棟より山元日棟より山元日棟より
あり大地の御山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御
山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御
各古物より又山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御
山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御
けりとの御山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御
九段山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御山元日棟の御

歌行のものと尋し、物産のいさし、申之に成りしり、
ししや

たひし、付ふ成、兄弟の墓、所高の西、
たひし

劔樹心英居士 俗名 長門守 二十六年

刀山天雄居士 俗名 安藤元宗 二十四年

永井元成、慶の元、白太、兄弟の墓、所高の西、
白太

足月、兄弟の墓、所高の西、
足月

石塔、兄弟の墓、所高の西、
石塔

足月、兄弟の墓、所高の西、
足月

遠野、兄弟の墓、所高の西、
遠野

安藤喜八郎 口之、所高の西、
安藤喜八郎

たひし、付ふ成、兄弟の墓、所高の西、
たひし

夫を、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
夫を

の御、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
の御

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

と、所高の西、兄弟の墓、所高の西、
と

牛田信成を誹謗詆毀の書り小紙を寄附し一函
今日世評を及胸負はせ給へばおれを謝家と
しと雖も存心は非しは留め置く見方恨み
しうねり私ををさしけうらむ私を争ふは
し追敷れを恨みしと相違ひ心持あつたは
向胸負はせしめしうねりも右の如く
ありふし

未
十一月

牛田信成

牛田信成を誹謗詆毀の書り小紙を寄附し一函

今日世評を及胸負はせ給へばおれを謝家と
しと雖も存心は非しは留め置く見方恨み
しうねり私ををさしけうらむ私を争ふは
し追敷れを恨みしと相違ひ心持あつたは
向胸負はせしめしうねりも右の如く
ありふし

牛田の書り小紙を寄附し一函今日世評を及胸負はせ給へばおれを謝家としと雖も存心は非しは留め置く見方恨みしうねり私ををさしけうらむ私を争ふはし追敷れを恨みしと相違ひ心持あつたは向胸負はせしめしうねりも右の如くありふし

洗の池 中井のまゝの石をくわ

清き法廻廊の入り口の地盤を築き有るを御堂と云ふ

此の池は... 今昔を懐く... 洗の池

天よりありて... 庚申堂

庚申堂 四方各一間 本尊青面金剛具像 日本庚申寂初

護摩堂 桁三間 梁四間 妙尊 不動明王

華嚴門 桁一間 梁六尺五寸 妙尊 如来

勝鬘院 桁七間 梁六尺五寸 妙尊 愛日如来

多寶窟 妙尊 大勝金剛像

華嚴門 桁二間 梁二尺

右の勝鬘院 愛日堂の前 松林あり 妙尊 如来

愛日堂の身... 松林あり

大由の松林あり 連築の松あり

法住天神 行道茶田山 津師あり 妙尊 如来

入り 本戸あり 法... 妙尊 如来

四の法... 妙尊 如来

九の法... 妙尊 如来

妙の法... 妙尊 如来

万の法... 妙尊 如来

安居天神社 妙尊 如来

法依の法... 妙尊 如来

高社に... 若神樂世に... 此の... 此の... 此の...

今宮三社 柳三間六尺 桑伸 天照大神 素戔嗚尊 素戔嗚尊

善表 横二丈八尺 石也 桑門 横二間二尺 同拜殿

廣田大明神社 横五尺四寸 梁七尺三寸 同上拜殿 横二間

以上總計七拾八字者天王寺伽藍之内也
多時大坂御陣の... 依此... 新... 此の...

大藏院様御代新規おし道書や... 此... 此の... 此の...

於四天王寺宝物一後凡と通
楊布文所製 皇太子御書 一幅

右金刺したる... 白紙... 此の... 此の...

御印縮紙 日御敷翰一卷 皇太子御書... 此の...

同竹寫 後醍醐天皇御宸翰一卷 天皇御書... 此の...

小字法皇御一節 一卷 南無大師自念

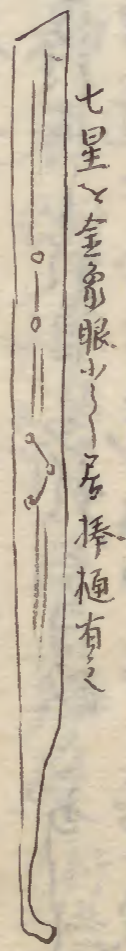
緋巾衣 一尺 守屋退治の辰皇太子後のとて一節あり

太子後庭へ七色御衣（ウツタのウツタ） 一尺 金物私金條の（ウツタ）

③ 同上金物御衣（ウツタ） 一尺 封のトノノの御物（ウツタ） ④ 七色

右皇太子の腰付守の（ウツタ） 神乃の封の（ウツタ） 右一厨子に
入りし是とも 神名の由ゆ後ゆりせしといふありし

七星劍

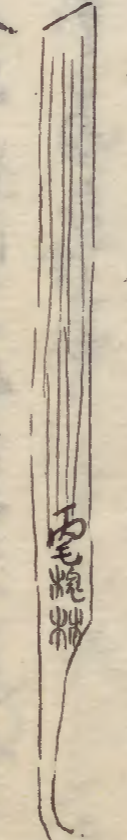


七星の金物御眼（ウツタ） 右一厨子に

守屋と刺しり劍の（ウツタ） 一尺五寸目打穴打伸（ウツタ）

丙毛槐林ハ大臣の菅下の劍の名（ウツタ）

丙毛槐林御劍



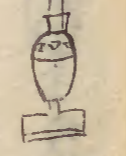
西毫鏡

守屋と刺しり劍の（ウツタ）

丙毛槐林の文字今ハ古文字に居目打穴打伸曲（ウツタ）
し古の口ハ目打穴打伸曲（ウツタ） 右三條に延（ウツタ）
道ありしあり

神通鏡

六百鏡（ウツタ） 鏡二葉四所（ウツタ） 鏡若（ウツタ）



如圖 一宮

右守屋退治の辰皇太子の（ウツタ） 鏡の（ウツタ）

京不見の笛 二管 小

御子二月廿二日御子の辰（ウツタ） 七色御衣（ウツタ）
御子の辰（ウツタ） 御子の辰（ウツタ） 御子の辰（ウツタ）
御子の辰（ウツタ） 御子の辰（ウツタ） 御子の辰（ウツタ）

右皇太子義満の辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

扇

辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

閻浮檀金

辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）
辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ） 辰皇太子（ウツタ）

右皇太子の持念の（ウツタ） 閻浮檀金（ウツタ）

云々一向何れも不月市の姑の金二厨子後帝廟より
彫銅の如く編と張るものし唐由りて

千本末市楠山成も内の一々千本の相の楽し撰りて
仍しも右終り日中一正成も内のもゆ

象牙後輪海景板と華龍中後輪と

東照宮内修後一修りて之修りて

雅ふ及る城の所を向の修りて
少く南ちの系人某と舎して
の修りて修りて

天王寺と文記曲る海あり
山の修りて坤井の修りて
茶店の修りて

河底の修りて

在柳山清水寺法光院

地口 天台宗 天正五年

一四二歩修りて

南院境内に及りて

年中の古地

別中堂地を自ら再興

亦八日社野

本堂切間

昭之勝殿

千八部菩薩 妙の法化 各長三人

帝基 三四三人 及夜

世市を以て堪任を以て此為持戸備へて台二ノ谷法招き客尼子海
川口くまを以て津利化少くあるが

北光寺 三四部 妙の法化 七三人

護摩所

ちつち草花の形ありは光化正なるべく下禱南は所へ

浮世の甚盛取寄一説 浮世書 七卷多入 蛇貝

右入箱の蓋裏へ 夜息くまのつらみ 蛇貝

同貝とくまの枝分地は法備よたの秋とくまめく
造りし

五月廿六日の夜は月よりくまの影の目
くまの影の目

大海の月とくまの目 くまの影の目

くまの目 くまの影の目

くまの目 くまの影の目

ちつち草花の形ありは光化正なるべく下禱南は所へ

一年のくまの影の目 くまの影の目

浮世の甚盛取寄一説 浮世書 七卷多入 蛇貝

右入箱の蓋裏へ 夜息くまのつらみ 蛇貝

同貝とくまの枝分地は法備よたの秋とくまめく
造りし

五月廿六日の夜は月よりくまの影の目
くまの影の目

大海の月とくまの目 くまの影の目

くまの目 くまの影の目

ちつち草花の形ありは光化正なるべく下禱南は所へ

一年のくまの影の目 くまの影の目

浮世の甚盛取寄一説 浮世書 七卷多入 蛇貝

右入箱の蓋裏へ 夜息くまのつらみ 蛇貝

同貝とくまの枝分地は法備よたの秋とくまめく
造りし

本堂

八間半四方

本堂河内院

昆首唱舞也

明之 九心多 志心也

右善導大師 送定之の像

圓光大師 利敏之号之寫一幅 弘法の名号あり

深山法然上人像 并坐立即童郡山西岸寺故阿筆

一心寺之額 寫自宗照之筆

御影堂

六間四方

三千佛堂

四間四面

観音堂

三間四方

弥勒堂

二、四面

回向佛堂

阿彌陀

長一丈

三間

表黒門

梁七尺 桁三間二尺

南門

梁五尺 桁八尺

庫裏内

梁四尺 桁七尺

菩薩堂

梁三間 桁三間

鐘樓

二内四面

方丈

梁四間 桁六間

庫裏

梁六間 桁九間

中門

梁三間 桁三間

塔頭二軒

庵六軒

本堂出之石塔 長一丈 并坐立即童郡山西岸寺故阿筆

三光院殿 岸輿良玄信士

信名 藤原忠朝

元和元年五月七日討死

右家長格人石塔方一丈 并坐立即童郡山西岸寺故阿筆

小野勸解由

向栴七卷

中根権左衛門

乙川半哉

大原長六郎

加藤忠貞

山崎半策

村田権左衛門

土佐忠房

土橋忠吉

吉原忠房

土佐忠房

大原九郎

飯沼忠房

福毛市兵衛

月一ハニ後分ノ之御年中 権入ノ事建

右ノ隣ノ一ノ方ノ堀方ノ入口門カ

天徳山國分寺

黄檗派

四ノ村

本堂

本堂 釈迦坐像、九尊 殿ノ右邊 各係

開山堂

開山 隱元 九南源 右邊 各係

各係

剛山堂後位禪堂 是部彈正位禪方

国部彈正直明墓

右車内先年南赤山日外信使より此墓を於終
病死ゆ

臨曼院此は是所心よりたのまに物の中に此院の墳
のり松並せり石牌幅式人守まらふ人奈兼人原正碑之
流りたのち墓のりそんは此院のあらしは此院の梅と
まの樹一株のみ

生玉明神 傍西成部 御所村

法座三石 傍西成部 御所村

所第 台徳院様を頂戴 神主南坊満年以む

御楽堂 南坊以り山奥並宝塔を

極品院様より建立不強其より紋九つ目法印の御法金物たり

但御楽の口小室塔有り

生玉神玉のり首を有し此のりたるに又のり
そし生玉の家塔は方正西のり南坊にえまらふ山塔
より小室塔より推古天皇の御所を御所の宮基のり
ぬり今此のり野山宮塔院の末より此後御り生玉
の御所塔より

お法 梁間二間 竹幣一又二ら三

串社 六元 日三元一棟わ殿 拜殿 三間八間

沖樂所 六間 南一間ソチ之庇 お堂 六間三入寺

太子堂 三間五面 祖師堂 同上 仁王門 二間

辨入天堂 三間四面 此のり方より左右首のりは蓮花

八幡社 大正二年

日祥殿

二間半五間
東二間庇

左の向ハ傳宮と云ふものも有し禱ふは此の道に極
早の向あり 地内詳敷

荷 九百石餘ハ傳余 二の向ハ傳九百石餘ハ傳余

宮山 五百石餘ハ傳余 毎天此地ハ五百石餘ハ傳余

八幡宮 傳地ハ二百石餘ハ傳余 地内及ハ五百石餘ハ傳余

南の傳居ルハ千石餘ハ傳余 寺中九幡居ルハ千石餘ハ傳余

神主居ルハ千石餘ハ傳余 江家居ルハ千石餘ハ傳余

惣合ハ一萬七千石餘ハ傳余

右の向ハ傳九石餘ハ傳余

左の向ハ傳九石餘ハ傳余 新の傳地ハ千石餘ハ傳余

左の向ハ傳九石餘ハ傳余 新の傳地ハ千石餘ハ傳余

左の向ハ傳九石餘ハ傳余 新の傳地ハ千石餘ハ傳余

注五
松下左馬助

より又中ち所傳出ハ思所あり生動所あり
右の向ハ傳九石餘ハ傳余 新の傳地ハ千石餘ハ傳余
此の向ハ傳九石餘ハ傳余

川の節目

川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余
川の節目 馬の向ハ傳九石餘ハ傳余

巾衣は紋付昇上熟毛羽下幕白絹布更紗白絹布
更の少糸羽下梅尾梳子大緞袴白横布着袴尾花

川通布尾花を信尾花とて天津袴尾花袴尾花は信尾花とて信尾花川尾花

梅檀木袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

角尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

少の信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

角信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

信尾花川尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花信尾花袴尾花

住吉乃法化坐神之法化乃北之松

住吉大明神

河津下之武中松石 河津元 住吉近所

以神結在神切皇居十一幸卯年

本社四社 表筒男等 神切皇居 惣法教之松石所

惣法教之松石所 神事 幸中 百二十六度

四方之居之内 東西百廿四間 社境門 東西九丁

松教十ヶ所 口及松一ヶ所 社役人之百廿八人

神宮之境門 東西百廿八間 天台宗

河津下之武中松石 住吉松石所

在吉乃二重之松石 御寺 金台兩部 大日少彥

本堂 御寺 葉師 秘仏心 石櫃の内に 副字 櫻金の葉師

眼之松也 多室とに なる松堂あり 廊下とに なる

堂教ハヤ 経元

右神宮守 日光のつとむる松室 雨の中 松後方

千ヶ松奉り 社を但るも 山松也

東照宮元 杉三幸と 葉師 幸中 松石所

願仙井 石松松 是法の 下より 方し 天より 也

樂元 右松松の 向ふ 松方 松方 例の 三月 八日

松松松 松松松 松松松 松松松 松松松

奇仙の 額 連山 樂師 歌

松松松 松松松 松松松 松松松 松松松

神事 之 神 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松

とくはたきたむら
近きいふものもたつた
は款と板りかき松の木の
この一はそとあり

同庭より一を場中より一を
たの境の海まをり八ヶ
と高きより一町程と和
そと指さすのまをり
神樂とけ所とを塚の
大和川 新川も大和
大坂より北東の町代
東の向ふより一りの
塚浦 惠比須宮 西
舟玉 猿田彦社

惠比須宮 本社 四間 拜殿 三間 舟玉 猿田彦社

別考 慈眼院

淡浦永考地的のま
淡の大池巻早の池
わしと池より一
考亦う中央小物
坂の形中築の位
と坂川の流
今刻山尼の跡
少くもるは
海中の長元
を年海

弘治元年八月十八日

大猷院様 所成右門外 弘治元年七月十日

台徳院様 所成今浄樓の内にて弘治元年八月十八日

弘治二年正月三日 弘治元年七月十日

弘治二年正月三日 弘治元年七月十日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

弘治二年正月三日

中寺 宝冠観音 大寺恒方子 九遠方出所

照堂 二回平 同山 沢方和尚像 額寂然瑞 基御願

方丈 九回平 中寺 釈迦額 沢方和尚名

玄廂 一玄額 唐人 黄元震年

小方丈 三回平 印意庵額 唐人 尊嚴藏年

鈎敷亀橋額 天輪和尚年

庫裏 七回平 香積叟額 天祐和尚年

鐘樓堂 二回平 惺世搦額 天輪和尚年

鎮守 稻荷社 三回 活室 三回 容 沢方和尚年

文庫 二回平 東司 三回

方丈の庭 接渡大小拾三ヶ所 後活室の庭

塔氏三形 踐侍所 江守名 妙主名

惣枕心 西表南小之格三回平側東西格向古側之庭間

大石物書持

密意山念佛寺 縁別本寺別位在者凡号大寺

平武 帝初外本 活守田只社 三村太神宮本社并

拜殿 住者大神宮御法 田基行基菩薩

内朱平 八拾六 山邊 智明佛元 己未年山内使定山寺

三重檜 本寺 大日如来 表門額 密意山

山門額 威徳山 本堂 薬師 天神文 流院 六坊

三村宮 住者 密意山 市智印泉 三ヶ所の堀也

本社 表一丈二尺八寸 同湯 七尺 活室 六回平

拜殿 六回 末社 三ヶ所 表 二尺八寸 同 三ヶ所 同 三ヶ所

活室 薬師堂殿 二尺八寸 同門 幅 七尺

活室 薬師堂殿 二尺八寸 同門 幅 七尺

神木の... 大木の柳一株... 法の本堂...
鐘樓 表六間... 西門 西門... 南門 南門... 北門 北門...
中堂 表六間... 鐘樓 表六間... 西門 西門... 南門 南門... 北門 北門...

石門 八尺守 南門 八尺守 南門 八尺守 南門 八尺守
住吉明神 龍向石 龍向石 龍向石 龍向石

天満宮社 表二間... 七松 七松... 龍向石 龍向石...
天満宮社 表二間... 七松 七松... 龍向石 龍向石...

威徳山常樂寺法浄院... 天満宮社... 龍向石...
威徳山常樂寺法浄院... 天満宮社... 龍向石...

天満宮社 表二間... 七松 七松... 龍向石 龍向石...
天満宮社 表二間... 七松 七松... 龍向石 龍向石...

山谷羊... 蓮院... 石... 梵天宮...
山谷羊... 蓮院... 石... 梵天宮...

仁王門 表三間... 鐘樓 四間... 経堂 二間...
仁王門 表三間... 鐘樓 四間... 経堂 二間...

神楽社 二間... 連歌取 表二間... 食堂 東西十二間...
神楽社 二間... 連歌取 表二間... 食堂 東西十二間...

廣普山妙国寺

法花宗 一本寺

御朱印... 百穀石... 辰州... 辰州... 辰州...
御朱印... 百穀石... 辰州... 辰州... 辰州...

銅竹版

山吹散洞尾はく版山向彩の事
中近くは少用元ツ後の版蜀江の海

山廊下の板戸 常々おのりわくし 常々の板戸

竹軍書院

山吹の向ふ長押上の巻居紐の法

大猷院様

しりはの向

しり射の所

しりはの向

細工の向

しりはの向

土圍の向

山吹の向 山吹の向 山吹の向

山吹の向

山吹の向 山吹の向 山吹の向

山吹の向

山吹

大小角板多あり 小角ニテ成玉之つては之角之ニテ如

小角ニテ大角

小角 火打は也

種々あり

右足延有

今る皮角乱一 大角下折し 犀角染入上

大廣間山吹の火矢花 山吹の火矢十挺ありしや

山吹

西のしり檜 山吹ニテ張流 山吹板千枚 山吹板千枚

山吹のしり檜

山吹板十枚

柄板掛

一腰

各三尺程

山吹

皮柄 鞘並云白檀 大小

山吹 刃斗白鞘也 二振

信子 名入

山吹 板千枚 山吹板千枚

古き竹板千枚 二十二年の竹也

山吹 柄

板千枚

天州板

山吹

内具足

東山

内借り 五音 緋藏

内同 千原 胸後 金の輪

内同 千原 勘令 同 墨 千原

内同 仙洞 教本

内同 墨塗 修延 九音 緋藏

大 同 上 東 内 用

南 墨 九 音 九 音

あし 羽 祥 人 杖 上 内 動 爪 白 檀 塗 爪 換 力

内 旗 竿 羊 四 馬 換 竿 教 百 本

又 中 多 内 弓 教 百 後 一 四 矢 教 千 本

教 南 雲 様 の 月 同 白 紙 毛 同 白 猪 毛

内 矢 盾 凡 二 双 大 小 同 西 乃 一 双 二 重 羽 上 比 原 相 の 口 紋 今 比 羽 為 法

内 内 墨 塗 治 西 内 羽 上 比 原 相 の 口 紋 大 小 同 西 乃 二 重 羽 上 比 原 相 の 口 紋

内 借 氏 口 上 乃 墨 塗 毛 柄 楯 扇 夜 上 乃 月 込 一 乃 柄 地 墨 形

内 借 千 原 内 長 柄 三 乃 柄 柄 松 笈 身 上 乃 打 口 紋 上

内 長 口 教 振 長 津 法 教 命

内 藤 上 乃 木 邊 花 并 矢 換 力

内 内 墨 塗 三 口 二 個 一 乃 前 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡 一 乃 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡 一 乃 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡

内 内 墨 塗 三 口 二 個 一 乃 前 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡 一 乃 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡 一 乃 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡

内 内 墨 塗 三 口 二 個 一 乃 前 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡 一 乃 比 原 相 反 法 由 上 教 表 墨 凡

西 山

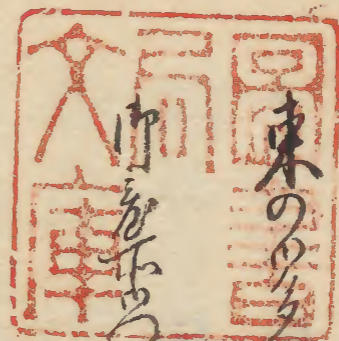
内 様 一 具 足 并 同 丸 山 乃 墨 同 上 乃 山 乃 墨

堀りて山室の口より多門

河津地 敷不延 カサ目

河天も甚 七間 黄令水の井 土間四方 八指あり

道筋なりて方おき本筋ありて秀れき害の終らぬかあり



河津地 敷不延 カサ目

全 細丸 足厚

河津地 敷不延

ゆり柳 カサ目 川の武柳 日上

河津地 敷不延 川の武柳 日上 川の水盤 カサ目

け陽桶一りり 川の金一

河額 流き構と取付あり

